

「岩崎元郎と10年間で完登をめざす、ぼくの新百名山登山教室」

1月よりスタート

前号でご案内した、「日本百名山登山教室」を、「ぼくの新日本百名山登山教室」に変更します、のご案内。百名山登山教室を発表するや、すかさずご意見を頂いた。

「残り時間が少なくないんだから、あれもこれもできないでしょ。せっかく『ぼくの新日本百名山』を還暦記念に選定したんだから、百じゃなくて、新百をやるべきじゃないかしら……」。

目からウロコが落ちるとは、このことだと思った。新百でいくということを考えていなかったわけではないが、自分のこととなると、どうも主張しづらい、存外引っ込み思案で気の小さい岩崎なのである。ありがたい忠告だった。素直に受け入れて、百名山登山教室から新百名山登山教室に変更することを即断。もちろん百名山の方が希望者は多いだろうが、百ならどこでもだれでもやっている企画だろうが、新百できるのはぼくだけだ。

2003年の秋、朝日新聞の方に還暦記念イベントとして、一年間で日本百名山に登ってみたいので応援して欲しいとお願いした。「応援しましょう」との快答。「朝日新聞で応援するんですから、深田百名山じゃなくて、岩崎さんなりの百名山を考えてみたらいかがでしょう」とアドバイスを頂く。『ぼくの新日本百名山』が誕生した瞬間である。自分なりに考えた「新百名山」選定の基準は、第一に47都道府県から必ず1山選ぶ、第二に山好きだったら登っておいて欲しい日本の名峰、とした。結果として岩崎の選んだ100山は、52山が日本百名山と重複している。深田久弥さんのご長男、森太郎さんは、「父は、山の側から100山選びましたが、岩崎さんは登る側から選びましたね、マーケティングですね」と評して下さった。

そして迎えた2005年、自分の還暦を記念して、『ぼくの新日本百名山』の100山に1年間でチャレンジした。充実した1年間であった。それから5年、それまで以上に山を仕事として楽しくやってこられたから、自分は世界一の幸福者だと思ってきた。これからもそんな日々の延長線上でやっていけるだろう、それで充分だと満足していて、ぬるま湯に浸かっているような状態だったのである。

ある日、「これからの5年、10年の夢は？」と問われて、ドキッとした。答えにつまってしまった。その間が、夢を忘れていたことに気付かせてくれた。夢を忘れたら、たちまちトシヨリになってしまう。土俵際で目が醒めた。目が醒めると、目の前に素敵な夢がたくさん浮かんでいることに気が付く。「山の出前講座」を全国津々浦々にお届けしたり、もっと実のある「山歩き」や「自然保護」に関わる番組提案、やるべきことはいっぱいあるなあ……。

1月よりスタートする新日本百名山登山教室、向こう10年の夢である。